

資料 2

図柄ナンバープレート（地方版）の 寄付金の使途について

図柄ナンバープレート（地方版）の寄付金の使途について

熊本県における図柄ナンバープレート（地方版）の導入時期は、平成28年4月の熊本地震からの復旧に向けて、県民一丸となって歩み始めていた時期と重なり、**災害からの復興・復旧のシンボルとして図柄ナンバープレート（地方版）の機運醸成がなされた結果**、平成30年10月にくまモンナンバーが誕生し、現在では**全国の中でも普及率の高いナンバープレートの一つ**となっている。

**郷土に愛される
図柄入りナンバープレートを
目指して**

～ 熊本県くまモンナンバーの取り組み ～

令和7年（2025年）5月19日（月）

熊本県知事 木村 敬



©2010 Kumamoto Prefecture



平成31年4月25日
図柄ナンバープレート（地方版）に係る蒲島熊本県知事（当時）、枝広福山市長による石井大臣（当時）への表敬訪問

福山市においても平成30年10月の導入前、平成30年7月豪雨により被災

県民に支持される
図柄ナンバープレート



普及率4.34%
(全国第6位)

申込件数71,339件
(全国第1位)



普及率3.07%
(全国第16位)

申込件数25,422件
(全国第7位)

令和7年3月末現在

4 さいごに

くまモンナンバーが県民から支持されたポイント

1 創造的復興のタイミングでの導入

熊本地震の翌年、「がんばろう熊本」が合言葉となっていたタイミングで導入することを決定。

2 県民ニーズ等の把握・デザインへの反映

県民アンケートを実施したことで、本県の特性を反映でき、県民のニーズにも対応できた。

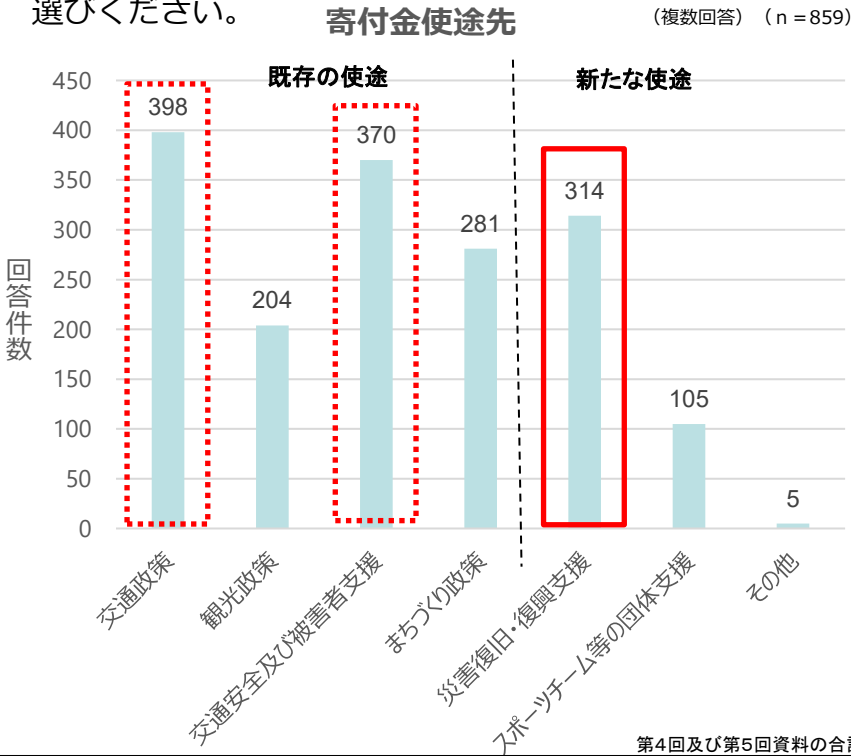
現在でも、災害復旧・復興支援に資する「公共交通の輸送の円滑化、輸送力の強化」・「観光旅行客の受入れ体制の強化」・「街づくり」・「観光施設・拠点等の保全・整備」の目的に寄付金を活用することは可能であるが、ユーザーアンケートにおいて、現在、寄付金の使途としている「交通政策」、「交通安全及び被害者支援」の目的に次いで、**「災害復旧・復興支援」の目的に寄付金が活用されることが良い**と回答がなされている。

現在の寄付金の使途

- 1. 公共交通機関等のバリアフリー化に資する事業
- 2. 公共交通の輸送の円滑化、輸送力の強化に資する事業
- 3. 公共交通機関等の利便性の向上・観光旅行客の受入れ体制の強化に資する事業
- 4. 次世代自動車の普及に資する事業
- 5. 自動車等による交通事故防止対策、被害者救済対策に資する事業
- 6. バスやタクシー等の公共交通事業者に対するドライブレコーダーやバックモニターの設置等公共交通機関等の維持確保に資する事業
- 7. 街づくりに資する事業
- 8. 観光施設・拠点等の保全・整備に資する事業
- 9. その他、上記事業と一体となって利用者利便の向上、公共の福祉に資する事業

ユーザーアンケート結果

Q;図柄入りナンバープレートの寄付金は何の目的に使われるのが良いと思いますか。良いと思うものをすべてお選びください。



➡ これらの状況を踏まえると、次回導入要綱において「災害復旧・復興支援に資する事業」を寄付金の使途に追加することが適当ではないか